

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372800989
法人名	医療法人社団 藤岡会
事業所名	グループホーム 日々輝
訪問調査日	平成 20 年 10 月 22 日
評価確定日	平成 20年 10 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372800989
法人名	医療法人社団 藤岡会
事業所名	グループホーム 日々輝
所在地	熊本県上益城郡御船町辺田見181 - 1 (電話) 096 - 282 - 0003

評価機関名	特定非活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本県熊本市上通町3番15号402号		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年10月31日

## 【情報提供票より】(H20年10月 2日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4) 利用者の概要(10月 2日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	1名	要介護2		2名		
要介護3	3名	要介護4		3名		
要介護5	0名	要支援2		0名		
年齢	平均	89.2歳	最低	83歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤岡医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺には住宅や店舗が増え始め、これまでの住環境にも変化がみられ始めているが、地域住民との和やかな会話や挨拶などによって、安定した入居者の生活が支援されている。食事前の一連の体操(嚔下、早口言葉、歌など)は入居者に定着しており、趣味や得意なことなどの場面提供などと共に身心機能低下防止に効果を上げている。関連施設との連携で医療面でもきめ細かい支援がされており、家族からは大きな信頼が寄せられていることが窺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の変化に迅速に対応するため情報収集し計画の見直しを行う際、入居者家族の意見等がうまく取り入れられておらず、現時点で介護計画に反映することが不十分である。また、入居者の生活意欲向上のための支援に関しては、一人ひとりが活躍できる場面提供が図られている。センサー設置による居室での転倒が減少しており、安全面での向上がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は職員全員で取り組み、担当者によってまとめたものである。職員は評価の意義については理解しており、ホームの問題点について把握している。外部評価の結果をうけて、検討・改善に取り組む予定にしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームの近況報告や地区の行事情報の把握、認知症に関する啓発講話などが行われている。地域の情報を得るための機会として有効に機能しており、今後は地域の認知症の啓発拠点となることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との関係が良好で、面会や家族会時に入居者のホームでの暮らしぶりを報告し、要望や意見を聞く雰囲気作りを努めている。出された意見は早急に職員で話し合い運営に反映するように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営推進会議で得た情報の中で地域の行事には参加をしている。入居者が経験した事のある行事には積極的に参加し、交流を図っている。ホームには犬・豚・猫が飼われており通りからも見渡すことができ、良い交流の機会となっている。災害時に関しては、地域連絡網を作成し、年1回程度協力を依頼し避難訓練を実施している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念やグループホーム独自の理念である「笑顔やさしさ 思いやり」とともに、活動方針(ケア方針)も掲げ、地域の中で暮らしを支援するとの思いが込められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの際に、理念に沿ったケアが実践されているかどうかを職員間で話し合っている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	推進会議での情報から、地域の行事にも出来るだけ参加し交流を図っている。ホームの行事の際には近隣の方に呼びかけをしたり、散歩の際などの挨拶や会話はできるだけ積極的にするようにしている。「こども110ばん」事業による小学生との関わりもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等で評価の目的や意義について検討し、自己評価には全職員で取り組んだ。評価結果については全員に周知し、改善に向けた検討をしている。外部評価結果後にも課題や問題点に関して改善を図る計画がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や地域への活動報告を中心に話し合っており、「認知症についての一口メモ」などの講話や地域の行事や情報の提供を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の以外にも、状況報告や情報交換のための電話や訪問をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時の他、近況報告は担当職員から手紙でお知らせしている。定期的なホーム便りの発行や、変化があった際には、随時電話連絡を行っている。金銭管理に関しては、面会時に出納帳を確認してもらっており、職員の異動の際にはその都度家族にも報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会開催時には意見・要望を出しやすい雰囲気作りに努め、出された意見に対しては全員で検討し改善するよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は出来るだけ避けており、離職時にも現任職員の関わりを多くすることで、ダメージが無いように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職歴や職責に応じた研修や学習会に参加している。法人内での研修にも出来るだけ参加するよう努め、外部研修後の報告会を全員への周知の場として利用している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城郡内のブロック会に参加し、情報交換や交流を図ることによって、ケアサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に本人や家族に見学や体験宿泊をしてもらっている。職員が自宅を訪問し、馴染みの関係を築いた後に入居してもらうようにしている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で入居者への関わりや会話を多くすることにより、支え合う関係作りに努めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の言動や表情から本人の思いや意向の把握に努め、出来る限り過ごしやすい生活環境を提供できるように支援している。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>思いや意見・要望等を把握した後、計画担当者と職員とで介護計画を作成している。作成した計画は本人や家族に確認してもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の状態・状況に変化があればその都度、話し合いの機会を設け見直しをしている。</p>		<p>効率的な計画の作成や見直しの為にも、介護記録の整理や項目の検討が望まれます。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じて柔軟に通院や外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添うかかりつけ医の医療受診が出来るようにしている。通院支援を行うことが多いが、状況によっては家族の同行通院の協力を依頼している。受診後は必ず双方が状況を把握できるよう努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成し、入居時や家族会の際に説明している。看取りのあり方については研修会や勉強会にも参加し、職員間で話し合っている。		終末期に関する入居者や家族の希望などについては、自然なかたちでの確認が必要と思われます。書類や記録様式の整備と共に、家族へも啓発や研修の場の提供が望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に応じた言葉かけに努めながらも、プライドやプライバシーを損ねない対応が出来ているかについて職員間でふりかえりを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせた自由な暮らしが出来るような希望に沿った支援をしている。食前の体操や学習療法による計算・漢字書き取り等も、声かけを全員に行ない自由に参加してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好をもとに職員が献立をたて、食事の準備・配膳・片付け・洗い物等は職員の見守りでみんなで一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に留意しながら希望に即した入浴支援を行っている。入浴拒否の方にも時間をかけた対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや草取りなど、一人ひとりの入居者の役割を把握し場面提供を行っている。書・絵・テレビ・新聞などの楽しみごとや、散歩やドライブ、地域行事への参加等気晴らしのための支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節のレクリエーションや、日常的な外出の支援も行っている。お弁当持参でのドライブや、家族も同伴した外泊旅行の支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠することの弊害を認識しており、昼間は鍵をかけず見守りや同行で入居者の安全を確保している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼・夜間想定避難訓練には入居者にも参加してもらい実施している。また、地域にも協力してもらうための連絡網を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄・水分量・食事は毎日チェックしている。嚥下や咀嚼能力に配慮した食材形態対応支援や、健康体操(身体・口腔等)を実施し、便秘などの予防を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング・食堂などには季節感への配慮や入居者の絵や書をさりげなく装飾することで家庭的な雰囲気作りへの工夫がされている。古民家風の作りにも落ち着きがあり、くつろげる場所の確保も十分に用意されている。換気や臭気への配慮もある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、本人の使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれている。家族の写真や趣味の花や自分の作品などが装飾されており、個性的で居心地のよい居室作りへの支援が行われている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム日々輝
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡御船町辺田見181-1
記入者名 (管理者)	河津 実子
記入日	平成 20年 10月 2日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスについて職員間で話し合い、地域の行事等へ積極的に参加したり、交流の場を持ち今まで以上に地域との結びつきの強化や関係性の継続を支援できるサービスを理念としている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ミーティング時は日頃のケアやサービスについて理念に基づき行っているかなどを話し合い再確認している。	全員が参加してのミーティングの時間がなかなか持ていないため、計画性を持った話し合いの場を多く設けていきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族の来訪時には、地域の方々との交流や行事参加等を説明している。地域の方々ともホーム来訪時や行事に参加するときなどにホームの方針や理念について話し、理解を得ている。また運営推進会議のときにも話し合いを行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	必ずホームの近くを通られる方には、挨拶や話し掛けを行っている。またホームの動物を見にこられ方が多い為、交流できる機会は取れている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域行事にはほぼ参加しており、地域の方々からも利用者や職員の顔をかなり覚えて頂いている。また餅つきやグランドゴルフなど利用者が経験したことがある行事には積極的に参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティング等においてスタッフ間で認知症について話し合いを行い、地域の高齢者などから認知症についての質問や疑問をもたれている時などは積極的に説明している。		地域の方々をホームに招いてレクリエーションや勉強会を開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組みミーティング等で目的・意義を伝えている。評価結果は全員に報告し改善に向けて、具体案を検討している。		改善案の検討を蜜に行い具体的に計画を立て、実践する努力を継続していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域への活動を中心に報告し、取り組みについても話し合い意見やアドバイスを頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か変わりがある時は、訪ねたり電話等の手段を用いて報告し情報交換を行っている。		つながりを強化する為にも、情報交換や現況報告などを密に行っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には出来るだけ参加しており、徐々にではあるが必要な知識を身につけられるように努力している。		多くの職員に研修会の参加を促し、全体的な知識の向上や必要性を考えていける場を設けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中での話し合いや研修等にも積極的に参加し虐待防止についての知識を身に付け、一人一人が理解をもてるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはケアやサービスについて時間を取り分かりやすく説明している。また不安や疑問等がある場合については来訪時や電話にて対応している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の方の言葉・表情等から察し、姿勢や雰囲気作りを心がけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当スタッフより利用者の方の近況・状態報告を行っている。変化があった時は、随時電話等にて報告している。金銭管理については来訪時に出納帳を確認していただきサインをもらっている。職員の移動時には都度説明しスタッフの紹介をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には来訪時等、常に問いかけ何でも言える雰囲気作りを心がけている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回ミーティングを行い意見・要望等を聞いている。不安なことや苦情等を言える雰囲気作りを心がけている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が心配なく安心して生活ができるように勤務を調整している。また問題点がある時には話し合いにて解決できるよう努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>GHは利用者・家族の方との信頼関係を築くことが重要な為、移動は出来るだけ控えている。離職時には顔なじみの職員が多く関わり、影響がないよう配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会・勉強会等には、出来る限り参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ブロックで連絡会があり、情報交換、研修会を定期的に行いサービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間のコミュニケーションの手段として会話を持つ時間を取っている。またスポーツ大会やイベント等には参加して親睦を図っている。他事業所とのスタッフとの交流機会を作っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別面談をし、職員の考え方や利用者の方への思い等を聞き仕事への関心を持つように取り組んでいる。また人事考課を行い、職員に応じたポジションを用意している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談があったら、必ず本人に会い心身の状態、本人の思いや不安を受け止め、利用者に受け入れていただけるよう関係作りに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が相談しやすいようにスタッフから多くコミュニケーションをとり相談しやすい環境作りに努めている。		一部のスタッフだけでなく、全スタッフが家族との交流の機会を多く設け、どのスタッフでも家族から相談を受けることが出来る信頼関係を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にはまず、状況を把握し話し合いの場において提案しながら1番必要な事を見極めるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学してもらい、ありのままのホームの雰囲気を感じていただいている。またスタッフが自宅に出向き顔なじみとなり、人間関係を築き安心してサービスを利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な会話を多く取り入れることにより本人の思いを知り、共感できる関係作りに取り組んでいる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者が職員と生活している中での生きがいや思いを把握して家族へ細かく伝えることで、協力関係を築けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況等を伝える為、職員が手紙を作成し家族との情報の共有に勤めている。また家族会を発足し情報交換の場を設けている。		家族会をより活性化させるために利用者や家族の意志を理解し、スタッフからの提案を増やしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方を通じ、知り合いや友人の方に来て頂いている。		利用者の方からも家族や友人の方を訪ねていけるような機会を作っていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの役割を見つけ、その中で利用者同士の交流や関わり合いを増やしていけるように、スタッフがサポートしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了しても特に今までとの関係は変わらず、気軽に来訪してもらったり電話等を行っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言動、表情、しぐさ等から思い、意見等を察した家族・関係者等から情報を得ている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・知人等の訪問時に本人自身の語り等から情報を収集し、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを理解し日々の関わりの中で気づきを感じ取り把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で思いや意見等を聞き、自分らしく生活が出来様、介護計画を作成している。		単調な計画にならないよう、モニタリング・カンファレンス等で意見、アイデア等を出し合い本人にとってより良いケアを提供していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で、利用者の変化があった場合には、申し送りなどを通じ話し合いの場を設けている。		本人・家族の意見を十分に受け入れ、変化がある時は終了期間前でも見直しを確実にやっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活チェック・排泄パターン・員推量チェック及び身体状況を日々の暮らしの中で確認していき、本人の言動、表情等を記録し職員間で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や外出の支援を行っている。家族に安心していただけるよう情報を共有している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域で安心して暮らせるように地区の委員の方をはじめ色々な方々と意見交換の場を持てるように努力している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容や訪問歯科を活用していつでも身だしなみを整えられる環境を作り支援したり、地域、町内の行事に参加できるような機会作りに努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			これから運営推進会議等において地域包括支援センターの方にも参加を要請し、協力関係を築いていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望するかかりつけ医になっている。医療機関受診時は、職員が代行することが多いが状況に応じ家族に協力を呼びかけている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診時はホームでの様子などの情報提供等を行う。受診時は状態説明等、情報支援を密に行い助言・指示を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に利用者の健康管理、状態変化に応じた支援が行えるよう、医療機関との連携を取っており、気軽に相談が出来る関係が出来ている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人に関する情報を提供し、医師と話し合う機会を持ち事業所で対応が可能な段階で早く退院出来るようアプローチしている。家族の方とも情報交換しながら退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	研修会や勉強会に参加して、ホームで出来る範囲でのターミナルケアのあり方について話し合っている。		利用者や家族の意見を尊重したターミナルケアの方針を考えていきたい。また記録物や承諾書の作成等も平行して行いたいと思っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	スタッフが不安なことやケアに関して難しいこと、出来ないことについての把握を話し合いなどによって行っている。また体調の変化があった場合には、家族と今後の方針について話し合っている。		本人や家族の意見を第1に考慮する。急変された場合には早急な対応が出来るよう、家族にも随時、意思を確認し医療機関とも連携を取り対応していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者間での話し合いの場を持ち、支援状況等について詳しい情報提供を行い、その後も連携していくように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の関わり方を勉強会の折に点検しあい、利用者の方の誇りやプライバシーを損ねない対応が出来ているか確認している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活の中で利用者に合わせた声かけを行い、意思表示が困難な方は行動・表情の観察をしながらレベルに合わせた決定の場面を作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間を決めず、一人一人の起床時間に起きていただき食事をとってもらっている。外にはいつでも散歩等出向けるように本人の気持ちを尊重している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みの理美容院でも希望に合わせたカットやパーマ等をしてもらえるような生活の継続性を支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理では、味付けや野菜の皮むき等を個人のレベルに合わせて行ってもらう一人一人の活躍の場とし、利用者とスタッフが一緒に食事の準備や片づけを行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人一人の嗜好品を理解し、誕生会や行事等で好まれるものを楽しく食べていただけるようバイキング・お弁当などに取り入れている。又買い物には一緒に出かけ好きな食べ物を選んでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、排泄のパターンを把握しサインを見逃さないように支援している。又トイレの場所がわかりやすいように張り紙などをして対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を確認し、入っていただいている。また夜間入浴も行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の体調・表情を観察し無理なく活動を促し生活のリズムを整え夜間はゆっくり休んでいただけるよう努めている。寝付けない時などにはお茶を飲みながら会話し安心して休んでいただけるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りなど一人一人に合った役割を見つけ力が発揮できる環境作りをしている。また外出や地域行事等への参加など気晴らしの支援も行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はホームスタッフがお金を管理している。外出時は本人の買い物に同行している。状況に応じ本人にお金を渡し自由に買い物等をして頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じていただけるよう、お弁当などを利用者と一緒に作り希望に応じた場所へ出かけられる支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中から一人一人が行きたい場所をスタッフが把握し、会議等において計画を立てている。また家族を交えた外泊旅行などの支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いを自らかいてもらい大切な人との関係が途切れないよう支援している。電話はかけたい時にかけていただけのようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人・知人の方が都合の良い時間帯に来ていただけるようにしている。裏庭に庭園を作り来訪者と眺めながらゆっくりと話が出来るようなスペースを設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等において一人一人が身体拘束についての意味を理解し、現場での状況などを基にして話し合う機会を設けている。		より具体的な身体拘束の内容をスタッフが理解していく為にも研修会や勉強会に積極的に参加していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に外出が出来るようにしている。外に出られた時はそっと見守り状況に応じ一緒についていき安全面の配慮を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はホームにて記録等を行い利用者の安全・プライバシーに配慮しながらさりげなく見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、スタッフ間で注意を促しケースに応じた対応を心がけている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の利用者の状態を理解し、スタッフ間の申し送り等を密に行い一人一人の事故防止に努めている。事故発生時は事故報告書等に記録し予防対策の検討と家族への説明を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生法の講習を受講しすべての職員が対応出来るようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力体制については、地域連絡網を作成し年1回程度協力を依頼し避難訓練を行っている。火災時の避難訓練・通報訓練は年2回程度行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	まず利用者の意思を尊重しその上で起こりえるリスクは、家族と話し合いを行い説明し納得していただいている。スタッフは利用者が安全に生活していただけるよう環境作りに配慮している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況をスタッフ全員が把握し、変化が見られるときなどはバイタルチェックを行い主治医に速やかに報告し必要に応じ受診している。訪問診察時には状態報告等を密に行い定期的に検査をしている。また体調変化の早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等の情報ファイルを整理し職員全員が目的、用法、用量、副作用等を確認出来るようにしている。服薬は個人に応じ手渡し、つぶし等にて対応し服薬確認をしている。変化がある時には詳細に記録をとり必要に応じ主治医に報告する。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄状態を常に記録し、状況に応じ、繊維質の多い食材を取り入れたり、水分補給に努めている。また日頃から健康体操など体を気軽に動かしていただけるレクリエーションを取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけや利用者の力に応じた介助を行い、管理、手入れがいつでも出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し、スタッフ間で情報の共有に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	情報収集を行い、早期対応に努めている。手洗いうがいの励行や利用者・家族に同意をいただき、職員と共にインフルエンザの予防摂取を受けてもらっている。現在感染予防マニュアル作成中である。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾等は毎日漂白、除菌を行い清潔また食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチやプランターをなど置き明るい雰囲気作りを心がけている。又動物を飼い近隣の方々に親しみやすく気軽に立ち寄っていただける工夫も行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と共に季節感のある飾りを多く取り入れゆっくりとくつろげる空間作りを心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下数ヶ所にベンチを設置し利用者一人一人がゆっくり出来る空間を作っている。窓から庭園が見えゆっくりくつろげるスペースを作り工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのものを配置し住み心地の良い部屋作りに努めている。状況に応じ家から家具等を持ってきて頂き装飾している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差に注意し、利用者の様子を見ながら調整している。又換気は2時間ごとに行えるよう職員間で声かけを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居住環境が適しているかミーティング等で話し合い状況に応じ提案していきながら改善している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者にとって何が判りにくいか、どう支援したら利用者の方でやっていけるかをその都度、職員間で話し合っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先に花を植えたり、畑を作ったりして利用者の方が楽しみながら活動出来るように支援している。またデッキにソファを置き涼んだり、日光浴が出来て庭先の花が一望出来るようにしている。		

## サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の関わりの中で利用者とスタッフという関係ではなく、みんなが家族のような関係でいられる様なケアを目指し頑張っています。また地域の行事には積極的に参加し、近隣の方々とのふれあいを大切にしています。協力医療機関との連携がしっかり取れているため、体調管理も充分に行う事が出来ます。動物達もたくさんいる為明るい日々が送れます。